

同窓会事業等の現況報告

事務局長 大津 清右衛門

同窓会員の皆様いかがお過ごしでしょうか。ご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。今回は同窓会事業や収支状況等運営内容の概要についてご説明をさせていただきます。ことといたします。

南陽高校同窓会につきましては、毎年三年生が卒業の際に納めていただく一万円の会費と会報発行時にお願ひ申し上げご協力いただいております。寄付金を活動の原資として運営をしているところでございます。

通常事業として、部活動関連での大会における成績優秀な部（選手）の活動をたたえる垂れ幕、成績優秀な卒業対象者を表彰する同窓会長賞、卒業生に配付している卒業証書ホルダー、総会開催経費、郵送料等通信費、その他人件費を含む事務諸費、合計で毎年一六〇〜一八〇万円の支出額となっております。

通常事業以外の事業（会報発行）につきましては、積立金をしながら実施してまいりますが近年におきましては、創立二十五周年事業が市民文化会館で行われました。

今回の会報につきましては一八二万円の会報発行積立金を用いて約一万八千部を発行いたしました。同窓会が宮内高校と赤湯園芸高校を母体とする南陽高校の発展に寄与してきましたが、これからは南陽高校卒業生が中心となり、同窓会の役割をバトンタッチして運営して行く方向にしなければならぬと思っています。ところで、



同窓会において、南陽高校生の最大のサポーターとしての役割を果たしている。

平成二十八年度同窓会の事業推進

（一）南陽高等学校在校生への活動支援

一部活動成績優秀者を称える懸垂幕

二 卒業生への記念品

三 成績優秀者へ同窓会長賞

四 体育文化後援会への補助

（二）南陽高等学校同窓会が未来への希望を抱くために新たな取り組みへのスタート

①支部体制の強化
活動が減退及び停止状態の支

部に対して卒業生の参加を呼びかけ、支部の強化をはかり、次世代のリーダーとして養成をして行く。

②支部活動の強化

支部活動費の補助により運営の活動報告を受けながら協力をして行く。

（三）組織強化の推進

一 新しい取り組みとして、同窓会の役員体制の中に六七九四名の卒業生の中から次世代リーダーとして養成して行く

たしていくにあたり、生徒数の減少問題があります。二十八年度卒業生は、一六七名です。卒業時にいただく会費収入が唯一の安定財源である同窓会にとって運営上大きな懸念材料となっています。今後も続く少子化傾向の中、志望者が増大することを願わずにはいられません。

同窓会会員の皆様には、南陽高校同窓会発展のため、入学者の増大にご支援いただきますよう心からお願ひ申し上げます。これまでの会報発行時と同様に今回も皆様へご寄付をお願いすることといたしました。大変恐縮でございますが、よろしくお願ひ申し上げます。

ため、部活動の顧問の先生を通して、若きリーダーの人選、ご指導をしていただき、「青年部」として参加いただき、会議により正式な名称を決め、積極的な運営の活動を行ってもらう。

二 現在宮内高等学校、赤湯園芸高等学校の卒業生中心の同窓会組織を徐々に南陽高卒業生へのバトンタッチをして行くことが、ここ数年の課題であると再認識しながら全力で取り組んで行く。

役員紹介

（支部長）

赤湯	宮内	沖山	漆山	梨郷	金郷	川西	高井	長井	中川	米沢	吉野	飯豊	小国	白鷹
殿岡	飯塚	岩井	小原	黒澤	齋藤	渡部	大場	大津	藪田	佐藤	小笠原	安部	栗部	栗部
和博	一博	由美子	敏之	勝三	和哉	典雄	祐子	清右衛門	真一	真一	真一	真一	真一	真一

赤湯	宮内	沖山	漆山	梨郷	金郷	川西	高井	長井	中川	米沢	吉野	飯豊	小国	白鷹
殿岡	飯塚	岩井	小原	黒澤	齋藤	渡部	大場	大津	藪田	佐藤	小笠原	安部	栗部	栗部
和博	一博	由美子	敏之	勝三	和哉	典雄	祐子	清右衛門	真一	真一	真一	真一	真一	真一

躍進する南陽高校 地域貢献活動に高い評価

南陽高校の教育目標として、「自修」「自律」「自助」「和敬」の四つを掲げています。そのうち「和敬」は「郷土を愛し、社会に貢献する態度を育てる」という意味です。南陽市にただ一校の高校として、地域貢献、地域連携は生徒たちの目標でもありまた大きな誇りでもあります。これまで、宮内の熊野大社例祭での神輿担ぎや、フラワー長井線祭りへの協力など、地元行事にも積極的に参加してきました。また、二年続いた豪雨災害時にも南陽市の生徒ができる範囲内でボランティア活動に参加しました。また冬季には有志で除雪ボランティアなどの活動も行ってきました。ここではその一部をご紹介します。

コンピュータ部

コンピュータ部では平成二十五年度から南陽市と協力して、JR

社・烏帽子山公園・稻荷森古墳を巡る約十五キロのコースを徒歩でご案内し、大変足のくたびれる距離でしたが、参加者の方には大変満足していただきました。

おかげさまで、今まで六回実施し、のべ二百人ほどのお客様をご案内させていただきました。平成二十八年四月には宮内駅を起点に宮内熊野大



生徒たちにとっても、ご案内するために地域のことを調べ、地域の魅力を再発見する良い機会となっています。

今回は平成二十九年四月に実施の予定です。卒業生の皆様にもぜひご参加いただき、後輩の活動に叱咤激励していただければ幸いです。詳しくは、来年三月頃にJR東日本管内の駅に設置される「JR駅からハイキング」のパンフレットをご覧ください。

(顧問 田代博信)

災害ボランティア

平成二十五年、二十六年と二年続けて、南陽市は豪雨被害に遭いました。ともに七月に起きたものでした。

吉野川、織機(おりはた)川の水位が増し、南陽市街地、水田を含む広範囲で浸水が生じ、多大な被害を被りました。

平成二十六年は浸水家屋千二百戸以上、建物、道路、農産物等の被害総額二十億円を上回る甚大なものでし

た。

南陽高の生徒でも家が浸水した人がいました。また生徒たちが毎日利用するフラワー長井線も、織機川にかかる橋が護岸の浸食により危険な状態になり、不通となりました。

「豪雨被害に遭われた人たちに何か手助けすることはできないのか?」と立ち上がった生徒たちは、南陽市社会福祉協議会の協力のもと、約一週間にわたって「豪雨災害ボランティア」に参加し、浸水被害に遭われた家屋の土砂除去、清掃活動に参加しました。JRC部、ライフル射撃部、男女バスケット

